進捗報告（実行団体）

● 提　出　日　：　2022 年 10 月 11 日
● 事　業　名　：　CLD 青少年のための市民性教育プログラム
● 資金分配団体　：　公益財団法人　日本国際交流センター
● 実 行 団 体　：　特定非営利活動法人　アレッセ高岡

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
市民性教育講座の実施	①参加者数 ②講座の実施数	①参加者　:200（2020　年度）、400（2021 年度、2022 年度）（年間延べ人数） ②実施数:5　回（2020　年度）、12　回（2021 年、2022 年各年度）なお、不就学児童生徒の取り込み	毎年年度末	①参加者数:122 名(2022 年度上期累計) ②講座の実施数:6 回(2022 年度上期)	2
SDGs フォーラムの実施	①エントリー数 ②フォーラム参加者数	①エントリー数:10 組（2020 年度）、20 組（2022 年度） ②フォーラム参加者:150　名（2020　年度）、200 名（2022 年度） ③間接的インパクト（エンゲージメント）:10,000 以上（2022 年度）	2021 年 3 月 2023 年 2 月	2022 年度下期に実施予定	4

フィルムフェスティバルの実施	①映画制作ワークショップ参加者数 ②映画祭参加者数	①ワークショップ参加者数:10 名以上 ②映画祭参加者:200 名	①2022 年 3 月 2022 年 6 月	① WS 参加者数:10 名 祭参加者数:152 名	2
各種事業の運営・参画(青年部)	①参加者数 ②従事時間数	①青年部第 1 期メンバー:10 名参加 ②従事時間数:1 名あたり 10 時間以上	2023 年 3 月	①参加者数:4 月 1 名、5 月 3 名、6 月 18 名、7 月 1 名、8 月 6 名、9 月 1 名(異なり 18 名) ②従事時間数:(平均)4 月 2H、5 月 2.5H、6 月 9H、7 月 6H、8 月 7.5H、9 月 4H	3
学習・進学支援プログラムの実施	①登録者数(対面学習支援教室) ②従事時間数(対面学習支援教室) ③進路状況 ④ICT 活用支援参加人数(オンライン学習支援)	①登録者数の増加(40 名)及び不就学児童の取り込み ②従事時間数:月 26 時間 ③進路状況:本人が希望する進路の実現 ④1 年間の延べ人数:2020 年度 300 人、2021 年度 500 人、2022 年度 800 人(1 人 1 回2時間で週 2 回実施)	毎年年度末	①登録者数(対面学習支援教室):14 名(2022 年度 9 月末時点) 事業開始以降の新規登録者 22 名、卒業及び辞退 11 名 ②従事時間数(対面学習支援教室):月平均 22 時間 (22 年度 4 月～9 月末) ② 進路状況:対象者なし ④ICT 活用支援参加人数(オンライン学習支援):延べ 206 人	4
進学・就職説明会・相談会の実施	①参加者数 ②実施数	①参加者数の増加(60 名)及び不就学児童の取り込み ②実施数:年 3 回	毎年年度末	2022 年度下期実施予定	4

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑ 変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
3.（任意）活動に関する報告
2021 年度末から進めて来たフィルムフェスティバルについては、6 月に第 2 弾の映画祭を行った。第 1 弾の映画制作ワークショップ参加者を中心にシンポジウムも開催し、外国ルーツ高校生も日本人高校生も、映画制作という多様な他者との協働が非常に楽しいものであったこと、またその経験が各自の将来の展望を拓くものとなったことを語り合った。協働の成果としての映画作品の上映とともに彼らの声をダイレクトに届けたこのイベントの映画祭参加者に対するインパクトは大きかったようで、「いろんなことが SNS などの便利なツールでできる世の中ですが、リアルでの活動、生の声の力を感じました。素晴らしかったです。」「高校生からの発言に涙が出そうになりました。何人かは泣いておられて、青少年が過ごした 3 日間が素晴らしいものだったと伝わっってきたのだと思う。大人やお客さんに媚びない真っ直ぐな彼らの言葉に心震えました。制作現場は小さな社会そのもので、共助が自然に生まれる様子を見ていると、大人として恥ずかしい気持ちにもなる。若い人たちによってこれから作られる未来は明るいものだと強く思いました。わたしたちが暮らすこの国の未来が少し楽しみにもなってきます。」「保守的だという印象がある高岡に出来た団体が、このイベントを高岡で開催したこと自体に意義があると思う。」といったコメントがアンケートに寄せられた。今後は県内そして全国のミニシアターなどでの上映に向けて営業活動を行なっていく。これにより、今回のフィルムフェスを 1 回限定的に終わらせることなく、多くの人にインパクトを広げていきたい。 市民性教育講座は 2020・2021 年度とコロナ禍により何度も中止になったり延期になったりしてきたが、2022 年度上期は、感染対策をとりつつ（体調管理、人数制限、オンラインの活用など）、計画通りほぼ月 1 回のペースで実施することができた。対面の学習支援教室に参加している生徒にとってそれまで講座は「勉強と関係ないイベント」と捉えられ参加されない傾向にあったが、ペースを掴んだことで、これらがアレッセの教育活動の一環だと受け止められたようで、徐々に参加が増えている。一方で、学習支援に参加している支援者側の参加が伸び悩んでいる（具体的には運営にも関わる積極派と学習支援教室以外には参加しない消極派との2極化）。これまでアレッセの関係人口を増やすことや青少年への働きかけに注力しすぎて来たことを反省し、すでにアレッセに関わっている支援者への働きかけを今後は強化していきたい。

学習支援については、2022 年度上半期、対面・オンラインともに日本語の初級レベルの学習者が増えている。オンライン学習支援では 2022 年度より日本語教育専門家のコーディネーターが入り、日本語教育に明るくない支援者を支えている。一方で対面学習支援では、それまで支援者の側の「教科の専門家」という位置付けが長く続いたこともあり、日本語指導が必要な生徒に対する適切な対応が十分できていない現状がある。市民性教育講座への参加もそうであるが、対面の支援者に対する働きかけを工夫したい。

進学説明会（相談会）については、長く学校を会場として実施した経緯があり、その学校が現在もコロナ禍により外部からの不特定多数の入校を好まないことから 2020・2021 年度同様オンデマンド配信を検討してきたが、アレッセ内で検討した結果、思い切って会場を学校とせず、エスニックコミュニティで使用されている場所に移して対面で実施する方向で動いている。内容も、説明というよりは相談に重きを置くなど、改善を検討中である。就職相談についても、コロナ禍により公に会を開くという形ではなく、個別で相談に乗る形をとっている。そのため、相談者はアレッセにすでに関わりのある者（卒業生など）に限定されているが、今後広く相談を受け入れられるよう体制を整えていきたい。

青年部の活動については、イベントごとに参画できるメンバーを募る形で進めてきている。フィルムフェスティバルにおいては 16 名が運営に参加するなど、広がりを見せている。学生にしろ社会人にしろ勉学や仕事に忙しい月はアレッセの活動に参加できないこともあるが、それでよいのではないかと考えている。無理をせずできる範囲でよいので、アレッセの活動の意義を理解し長く関わってくれるメンバーが増えてくれればと思う。今後は、SDGs フォーラムや（SYDRIS 事業に含めていないが）学習支援事業の一環で進めている多言語学習動画の編集などへの青年部の参画を予定している。

③　広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
☑ 自団体のウェブサイトで表示している　☑ 広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　☑ イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） ・2022 年 4 月2日　北陸中日新聞『未来が見える発信』（概要：第一線で活躍するプロ「空族」の映画監督やスタッフが協力し、富山県内の外国にルーツを持つ高校生と日本の高校生たちが 3 日間で映画を作る。世代や文化的背景を超えて、映画制作について学んだ。） ・2022 年4月 4 日　富山新聞『卒業生を祝福』（概要：外国にルーツを持つ子どもたちの学習支援を行う当 NPO 法人が「卒業・進学おめでとうパーティ

―」を開き、高校進学を控えた子供たちが講師や保護者、支援団体らの祝福を受けた。）

・2022 年 6 月 1 日　富山テレビ　ライブ BBT『多様性に理解を　県内高校生が映画製作に挑戦』（概要：多様性への理解を深める映画の祭典が高岡市で開かれる。イベントには外国にルーツがある県内の高校生たちが制作した映画が公開される。）

・2022　年6月6日　北日本新聞『多文化共生テーマに映画』（概要：県内在住の外国ルーツの高校生と日本人の高校生が協力して短編映画「高岡事件」を制作した。6 月 11 日に高岡市内で開催される当 NPO 法人が主催の映画祭で上映する。）

・2022　年　6　月　6　日　北日本新聞ｗebun/Yahoo!ニュース「多文化共生テーマに映画　海外ルーツ高校生ら　11　日高岡で上映」https://webun.jp/item/7855744（概要：同上）

・2022 年 6 月 9 日　朝日新聞 DEGITAL「カラフルな私たちの『事件』です　多様多国籍ルーツの高校生が映画制作」asahi.com/sp/articles/ASQ687JRTQ68PISC001.html（概要：同上）

・2022 年 6 月 10 日　朝日新聞『多様なルーツ 10 人「事件」』（概要：同上）

・2022 年 6 月 10 日　読売新聞『多様性　映画制作で学ぶ』（概要：同上）

・2022 年 6 月 12 日　富山新聞『高校生制作の映画「高岡事件」上映』（概要：当 NPO 法人が主催する映画祭フィルムフェスティバル「フィウミ・コロリド」が高岡市ふれあい福祉センターで開かれた。）

・2022 年 6 月 12 日　読売新聞『「高岡事件」上映　生徒らトークも』（概要：同上）

・2022 年 7 月 23 日　北日本新聞 Webun「金屋町の伝統に親しんで　海外ルーツの若者向け企画」webun.jp/item/7867495（概要：当 NPO 法人は外国にルーツがある小中学生と保護者を対象に金屋町周辺の散策とスズでアクセサリーを作る体験ワークショップを開催した。）

・2022 年 7 月 24 日　北日本新聞『金屋町の伝統に親しんで』（概要:同上）

・2022 年 7 月 24 日　富山新聞『ボランティア団体「アレッセ高岡」の鋳物体験ワークショップ』（概要：同上）

・2022 年 8 月 28 日　北日本新聞『外国ルーツの子支援体制学ぶ』（概要：海外にルーツを持つ若者の学習などを支援する当 NPO 法人が、講座「外国人散在地域でどう外国ルーツの子どもを支えるか？」を開いた。県や市の教育関係者ら約30人が、新潟県上越市の支援体制を学んだ。）

・2022 年 9 月 27 日　北日本新聞『多様性・対話の必要性に理解』（概要：海外にルーツを持つ若者の学習などを支援する当 NPO 法人が、市民性教育講座「実践していますか？―批判的思考・対話・多様性―」を開いた。約20人が多様性や他者との対話の必要性に理解を深めた。）

2.広報制作物等

・2022 年 4 月 3 日「卒業・進学おめでとうパーティー」20 部

・2022 年 4 月 16 日「政府に届け！私たちの声−入管庁・外国人と共生施策パブリックコメントワークショップ-」チラシ 30 部

・2022 年 5 月 1 日「御車山祭を楽しもう！」チラシ　日本語、ポルトガル語、英語　各 20 部
・2022 年 5 月下旬「2022 年度アレッセ高岡事業（上期）」ポスター　337 部
・2022 年 6 月 11 日「アレッセ高岡　フィルムフェスティバル」フィルムコロリドチラシ　4,000 部、ポスター500 部
・2022 年 7 月 23 日「鋳物体験ワークショップ」　日本語、英語、ポルトガル語　チラシ　各 15 部
・2022 年 8 月 26 日「外国人散在地域でどう外国ルーツの子どもを支えるか？-新潟県上越市に学ぶ支援の作り方-」　チラシ 3,500 部
・2022 年 9 月 24 日「実践していますか？-批判的思考・対話・多様性-」チラシ　日本語 12,000 部、英語 5 部、ポルトガル語 10 部
・アレッセ高岡ホームページ更新　https://www.alece.org/
・Facebook 更新　https://www.facebook.com/alecetakaoka
・Instagram 更新　https://www.instagram.com/alece.takaoka/
・Twitter 更新　https://twitter.com/alecetakaoka
・YouTube チャンネル更新　https://www.youtube.com/channel/UCGNUDjIazcMKiwnvjOt3Dgg

3.報告書等

なし

4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）

・2022 年4月3日　卒業・進学おめでとうパーティー　参加人数 24 名
・2022 年 4 月 16 日　市民性教育講座「政府に届け！私たちの声-入管庁・外国人と共生施策パブコメワークショップ-」　参加人数 12 名
・2022 年 5 月 1 日　市民性教育講座「御車山祭りを楽しもう！」　参加人数 17 名
・2022 年6月 10 日　アレッセ高岡フィルムフェスティバル第 2 弾映画祭「フィウミ・コロリド」　来場人数 187 名
・2022 年 7 月 23 日　市民性教育講座「鋳物体験ワークショップ-ものづくりのまち『高岡』を知ろう！-」　参加人数 27 名
・2022 年 8 月 26 日　市民性教育講座「外国人散在地域でどう外国ルーツの子どもを支えるか？-新潟県上越市に学ぶ支援の作り方」　参加人数 42 名
・2022 年 9 月 24 日　市民性教育講座「実践していますか？-批判的思考・対話・多様性-」　参加人数 24 名

添付資料

2022 年 5 月 1 日 御車山祭り体験の様子

2022 年 7 月 24 日 鋳物体験ワークショップの様子

2022 年 8 月 26 日 散在地域体制づくりセミナー＆ワークショップの様子

2022 年 9 月 24 日 批判的思考セミナー＆ワークショップの様子